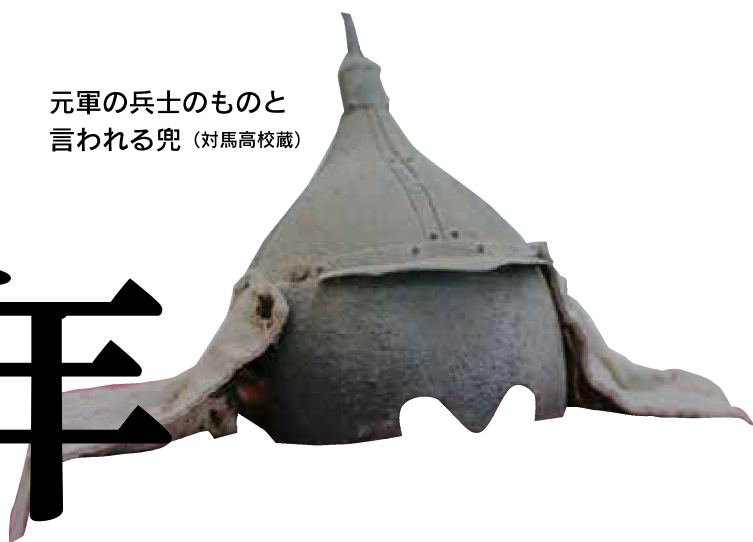




『蒙古襲来合戦絵巻』写、国立国会図書館デジタルコレクション

元寇 750年

元軍の兵士のものと
言われる兜（対馬高校蔵）



鎌倉時代、東アジアからヨーロッパに至る史上最大の領土を持った元が、日本へ向け兵を送りました。大陸に近い対馬にも大軍が押し寄せ、戦った武士だけでなく、多くの島民が命を落としたと言われています。1度目の侵攻「文永の役」から750年、対馬に残る当時の痕跡や次世代に歴史を伝えていく取り組みなどを紹介します。



旧 佐須中学校の生徒が蒙古襲来を太鼓演奏で表現

世界の歴史が大きく動いた時代、その時対馬は…

750年前、日本だけでなく、世界の歴史が大きく動いていました。国境の島である対馬は、いやが応でもその歴史の渦に巻き込まれていきました。

交易のために日本を目指す

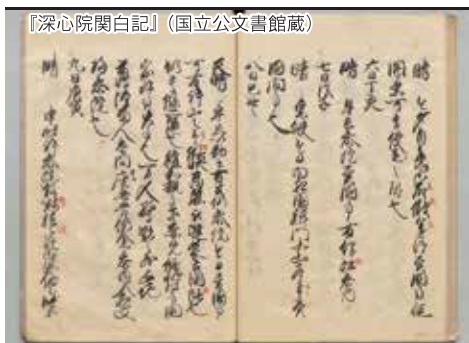
モンゴル帝国は、周辺国を征服することで交易の共通ルールを敷き、国を拡大させていました。朝鮮半島も例外ではなく、6回にわたる侵攻の末、1258年には高麗が属国になります。1260年に第5代皇帝となったフビライ・ハンは、国の名前を「元」と改め、世界最大の領土を持つ国を建国します。

フビライは、高麗の先にある日本が、金や銀が溢れている「黄金の国（ジパング）」であると聞いたことから、日本を征服し、属国にしようと考えたといわれています。



『元代帝半身像 冊 元世祖』
(台湾・国立故宫博物院蔵)

周辺国を武力などによって属国化することで、広大な領土を持つことになったフビライ・ハン



『深心院関白記』(国立公文書館蔵)

高麗と元から国書が来たことを驚いたと記してある鎌倉時代中期の公家、近衛基平の日記

再三日本へ使節を送る元

元は、日本と交流のある高麗の案内で使節を送ります。その対応にあたったのは対馬の人たちでした。1267年に対馬に使節が来島した際には、対馬守護代が大宰府に知らせ、そこから鎌倉幕府へと伝わります。翌1268年には、高麗の使節が大宰府を訪れ、元の国書を日本側へ渡します。従属を前提とした友好関係を求め、武力によって自分たちに従わせることをにおわせた国書に、朝廷は鎌倉幕府の意向に沿って国書の返事を出すことはなく、両国は戦いへの準備を進めることになります。

ついに出航、対馬は戦場に

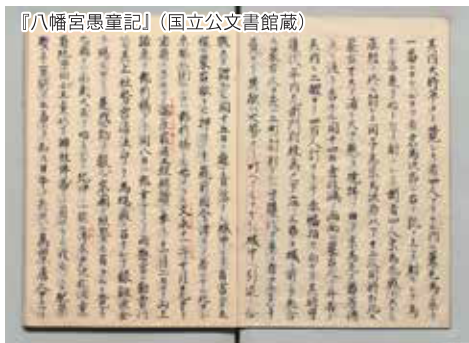
使節や国書を拒否された元は、属国である高麗に1万人の兵の用意と1000艘の船を作ることを命じ、日本へ出兵する準備を行いました。日本でも、鎌倉幕府が西海の守護たちに戦いへの備えを命じています。5回の使節を派遣したものの日本から拒否された元は、日本へ攻め入ることを決め、1274年の夏に朝鮮半島の合浦に集まった元軍2万と高麗軍1万の軍勢は、900艘あまりの船に乗り、旧暦10月3日出航、5日の夕方に佐須浦の沖に到着します。



宗資国一行が通ったとされる巖原市街地から佐須へ向かう古道

守護代 宗資国、一所懸命に対馬を守る

対馬の守護であった少弐氏の守護代として対馬に渡った惟宗氏は、武士化して宗を名乗るようになります。宗資国は、大船団発見の情報を受けると、大宰府への使いを送るとともに、自身をはじめ80騎ほどの家来を従えて、佐須へと山道を越えていきます。



『八幡宮愚童記』(国立公文書館蔵)

宗資国らの佐須浦での戦いを記した記録
当時の対馬を知る記録はほとんどない

『八幡宮愚童記』によると、夜明けとともに上陸した元軍と対峙した資国以下武士たちは攻め入る元軍と勇猛果敢に戦い、多くの敵を倒します。しかし、しばらくすると刀が折れ、矢が尽き、次から次へと襲ってくる元の兵士に全員が討ち取られてしまいます。戦闘の激しさのためか、資国の亡骸は、首や胴などが別々に埋葬されたとされ、佐須地区内に塚が残されています。文永の役から80年余り後には、島や島に生きる人たちを守るために命を懸けて戦った資国らを祀る師大明神（現在の小茂田浜神社）が建立され、現在に至ります。

対馬全島に残る元寇の痕跡と記憶

元寇は、宗資国ら鎌倉武士が多く戦った佐須浦だけでなく、対馬各地にその爪痕を残しています。また、その時にあったとされるできごとが伝えられています。皆さんが住む地域にも遺構や伝承が残されているかもしれません。

上県町伊奈

1269年、元の使節が来島。国書の取次ぎを求めるが拒否されたためか、2人の島民「弥二郎と篠次郎」を拉致し元の都へ連れていき、数か月後に連れ帰した。

峰町吉田



三根郡司 宗 甲斐六郎の墓
三根浦に侵入した元軍と戦って戦死したとされる人物。

上対馬町比田勝



佐護郡司 下野次郎の墓
文永の役の帰路、西泊に上陸した元軍と戦ったとされる人物。

峰町佐賀

2度目の元寇「弘安の役」で元軍が上陸したとされる場所

美津島町加志



与良郡司 越前五郎の墓
元軍を加志浦で迎え撃ち、戦死したとされる人物。

佐須地区

厳原町 対馬高校



高校に伝わる蒙古兵のものとされる兜。旧校舎時代からあることは判っているが、そのほかの詳細は不明

伝承を演劇や太鼓で表現

元寇の歴史を演劇や太鼓など形を変えて残しているものもあります。対馬市民劇団では、一人の女の子が風や潮の流れを巧みに読み、沖合に停泊していた元軍の船を攻撃した美津島町尾崎地区に伝わる物語を演劇として、2011年に上演しました。また、佐須地区の住民や陸上自衛隊の隊員が、元寇の惨状や武士の奮闘をイメージした曲を太鼓で演奏しています。なお、市民劇団では、今年12月に新たな脚本による再上演を予定しています。

漫画やアニメ、ゲームで元寇を感じる

2013年には、文永の役の対馬での戦いをテーマにした『アンゴルモア 元寇合戦記』が連載をスタート、少ないながら記録が残る史実を軸に、個性的なキャラクターが対馬を舞台に活躍し、対馬での元寇の歴史を新たな角度から描いた作品は、その後アニメ化するなど大きな広がりを見せました。また、2019年には、対馬での戦いをモチーフにしたTVゲーム『Ghost of Tsushima』が発表、全世界でプレイされ、その舞台となった対馬を訪れる観光客も増えました。

アンゴルモア 元寇合戦記 特別展開催

開催期間
10月12日～11月24日

詳しくは対馬博物館へお問い合わせください。

アンゴルモア 元寇合戦記
Angolmois
元寇合戦記
対馬博物館
元寇750年
特別企画
一照らし出された
対馬の元寇

次の50年につなげる

元寇から750年を機に、元寇の歴史と地域の思いを、次の世代につないでいこうという取り組みが進められています。

地域の一大プロジェクトだった元寇700年祭

50年前の昭和49年、小茂田浜神社の周辺で盛大なイベントが行われました。元寇から700年を記念した祭りには、毎年行われている例大祭だけでなく、自衛隊のヘリ遊覧や対馬出身の芸能人によるステージイベント、さらには福岡で行われる博多祇園山笠が展示されるなど、地域を挙げてイベントを盛り上げました。750年の節目を迎えた今年、50年前の賑やかなお祭りを体験した人たちが中心となって、今の子どもたちがワクワクするような祭りにしたいと知恵を出し合っています。



50年前のイベントに協力した大勢の人たちの名前が刻まれた記念碑

子どもたちの記憶に残る祭りをする ことで、50年後にも祭りをしたい てもらいたい

今回、地区の区長をしている縁もあり、元寇750年祭の実行委員長を引き受けることになりましたが、実は50年前の祭りの実行委員長は私の父が務めていました。父や役員の人たちが、対馬全島を廻って寄付のお願いをする姿などを見て、この祭りに掛ける意気込みが凄いものなんだと感じたことを憶えています。

小茂田地区に住む人間として、小茂田浜神社は、私たちを守ってくれる特別な存在です。今回750年祭を迎え、慰霊や顕彰という祭事としての祭りと、地域を盛り上げるイベントとしての祭りという両輪で臨んでいきたいという思いがあります。集まった実行委員の中には、子どもの頃に700年祭があり、その楽しかった経験を今の子どもたちにも経験させてあげたいと、協力してくれる人たちもいます。50年前は神社に関係する地区の住民で実施することができたイベントも、人口減少で実現が難しく、そういった声に非常に助けられています。

今回の元寇750年祭では、元寇について対馬だけでは感じるできない体験をしてもらおうと、地区の子どもたちと一緒に遺構が残る九州本島へ行く研修会も行いました。博多湾の防塁や松浦市にある史跡などを巡って、元寇について何かを感じ取ってもらえたらうれしく思います。11月に行う祭りに来てくれた子どもたちが、50年後の800年祭を盛り上げてくれることを願いながら、準備を進めていこうと思っています。



元寇750年祭実行委員会 一宮 義幸 会長



北部九州に残る元寇の痕跡を辿った



佐須地区の各集落から世代を超えて集まった住民による実行委員会

元寇750年祭

11月9日(前夜祭)・10日(本祭)

ところ：小茂田浜神社周辺特設会場
主催：元寇750年祭実行委員会
後援：対馬市

クラウドファンディングを
実施中!! →

